

### 3.1 公共施設等の現状と課題

今後、人口減少・少子高齢化が進み、税収入等の減少や施設等の改修・更新に使える財源の減少などが予想されています。このことは、老朽化が進む現在の施設等を今後もすべて維持していくことが極めて難しいことを表しています。

次の世代へ過大な負担を残さないためにも、限られた財源のなかで、今後どのように施設を維持し、更新していくかは将来に向けた重要な課題です。

一方、市の施設の機能や魅力を高め、将来世代の市民ニーズにも対応する取り組みが必要です。ソフト面を含めた様々な手法を組み合わせることにより、より効率的な行政運営の実現が求められています。

これらを踏まえ、本市における今後の公共施設等の管理に関する基本方針を定めます。

### 3.2 基本方針

基本方針1：経営的視点による総合的かつ計画的な管理

基本方針2：施設総量の縮減

基本方針3：ライフサイクルコストの縮減と平準化

基本方針4：全庁的な公共施設等マネジメントの推進

#### (1) 基本方針1：経営的視点による総合的かつ計画的な管理

配置等の見直しは、個別の施設毎の見直しに限定することなく、今後は保有する施設を市全体として捉え、必要な機能を選択することとします。

また、中長期的な観点から社会情勢の変化や推進施策の転換などにも対応できる見直しを常に継続していきます。

#### (2) 基本方針2：施設総量の縮減

##### ① 施設の統合、複合化、廃止等による配置等の見直し

公共施設については、将来の人口動向や財政状況を踏まえ、市民生活に必要なサービス水準を維持しながら、統合、複合化、廃止等により施設総量の縮減を進めます。

更新等を行う場合も、さらにその後の将来に施設の更新時期が一斉に到来することのないように調整・見直しを行います。

##### ② 災害時に必要な機能の確保

施設総量の縮減にあたっては、災害時にも必要な機能を確保できるよう、危機管理の視点も踏まえた配置等の見直しを行います。

③ 新規整備の抑制

公共施設については、今後、新規の施設整備は、原則として行わないこととします。ただし、社会情勢等の変化に対応するなど新たな需要に応える場合は、複合化等により施設総量の抑制を図ります。

(3) 基本方針3：ライフサイクルコストの縮減と平準化

① 予防保全・長寿命化

損傷などが発生した後に対応する事後保全から、定期的な点検により計画的な補修等を行う予防保全へと転換し、機能の維持と安全性の確保を図りながら施設等の長期利用を進めます。これにより更新サイクルを長くし、ライフサイクルコストを縮減します。

② 効率的な施設等の管理運営

市民サービス水準の維持・向上を前提として、PFI など民間ノウハウを活用した運営手法の導入のほか、施設機能の転換による有効活用や一元管理による施設管理の効率化、不用品の売却など、施設の効率的な活用を進めます。

(4) 基本方針4：全庁的な公共施設等マネジメントの推進

① 庁内推進体制の強化

今後、公共施設等については、単体での施設整備ではなく、保有する施設を市全体として捉え、必要な機能を選択することが求められます。これまで以上に総合的な視点が必要となることから、予算の確保も含めた総合調整や統括管理機能を強化することとします。

これらによって、本計画の実効性を高めることとします。

区分	内容	イメージ図
統合	同じ機能を一つの施設に集約 (施設規模や数を縮小)	<p>余剰</p> <p>同じ機能を既存の余剰分に集約</p>
		<p>新施設</p> <p>同じ機能を集約して建替え</p>
複合化	異なる機能を一つの施設に集約 (施設規模や数を縮小)	<p>余剰</p> <p>異なる機能を既存の余剰分に集約</p>
		<p>新施設</p> <p>異なる機能を集約して建替え</p>
転換	余剰施設の機能を取りやめ、 異なる他の機能を導入	<p>余剰</p> <p>需要が高い異なる機能へ変更</p>